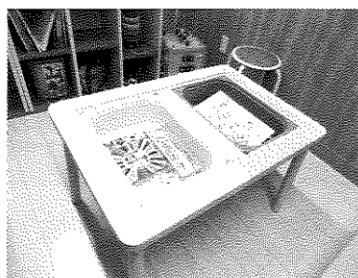
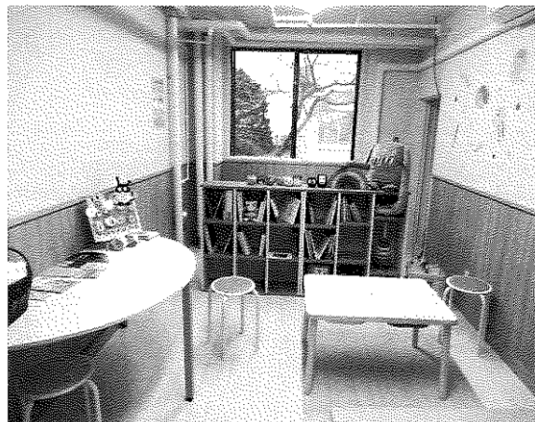


『こども子育て支援室 開設』

石倉 亜矢子 小児科長 兼 こども子育て支援室長・藤井 三四郎 主任

ビューポイント



人通りも多い1階に開設した「こども子育て支援室」。絵本やぬいぐるみ、おもちゃ類も少しずつ増えている。左はテーブルの中にセットされた塗り絵の道具

子どもをめぐるさまざまな問題に対応する「子ども子育て支援室」を開設

函館中央病院

「函館中央病院（函館市）は、1階医療福祉相談室そばに『こども子育て支援室』を開設した。石倉亜矢子小児科科長を室長に、子どもと家族を中心にさまざまなサポートを提供していく意向だ。

同病院は、総合周産期母子医療センターの認定を受け、一般小児科の他、未熟児や新生児、発達障害、アレルギー疾患等子どもたちのほとんどの病気に対応。こうした中、院内に「こどもとおとなの権利擁護委員会」を設置し、児童虐待の早期発見や予防活動に取り組む他、性虐待を受けた子

どもへの気付きと対応できる
大人を養成する研修プログラ

ム・R・I・F・C・R・T
 (リフカー)の普及に力を入れるなど、子どもをめぐるさまざまなサポートを進めてきた。こども子育て支援室の開設はこれまでの取り組みまでの一環といえる。

同支援室には
絵本や塗り絵、
ぬいぐるみ、お
もちや類等が用

的ケアを受けている子どもや親の診療時だけでは聞けない悩みや困ったことについての相談・対応を図る。内容に応じて、石倉科長、藤井主任の他、医療福祉相談室で小児・周産期を中心に対応してきた岩城朋美医療ソーシャルワーカーや川崎由里子臨床心理士も関わり、地域の訪問看護や小児科、幼稚園、小・中学校、養護学校等とも連携し、相互に相談・対応できる体制を強化する。

性被害や児童虐待、LGB

TQについても専門的な対応が求められており、診断だけでなく、駆け込み相談や問題に応じた相談先を紹介するハブ的な機能も同室で担っていく方針。また、一人で子育てをする母親が乳がん検診を受けたい等といった場合には、一時的に子どもを預かる場としても活用していく。

「こども子育て支援室は、大きく3つの柱を考えています。1つは、子ども自身の話をきちんと聴く場とし、『子どもと共に』いること。もう1つは、

地域も含めて子育てに関わる親の困り感について、さまざまな形で関わっていき、『子育てを共に』すること。もう1つは、子育てについて『地域と共に』学び、成長していくということなのです。最後の点は、地域子育ての考え方に結び付きます。少子高齢社会の中で子どもと接する機会のない方も増え、子どもを単純に“うるさい存在”と考えている人もいるかもしれない。しかし、子どもは未来を担う宝物。その存在を理解し、うるさがるのではなく何かできることはないかといった違った視点を持つきっかけとしたい」と石倉科長。今後は活動を進めながら病院として何ができるかを模索し、地域にも発信していく意向だ。

同室の愛称は「あそっか」と名付けられた。「あそっか」とはポジティブな思考が開いた瞬間に口をつく言葉であり、子どもも大人も何かを理解したり、異なる考え方に気付く場となる願いが込められているという。



こども子育て支援室室長の石倉小児科科長（前列右）と藤井同室主任（同左）及び川崎臨床心理士（後列左）、岩城医療ソーシャルワーカー（同右）

意され、子どもや親も自由に出入りでき、藤井三郎社会福祉士が同室主任として常駐。院内の診療体制やこれまで培ってきたサポート体制を背景に、発達障害や糖尿病、脳性まひ、早産等といった医療